

VCS トラバーサルと非トラバーサル コールのライセンスの使用

内容

[概要](#)

[VCSトラバーサルコールライセンスの使用状況](#)

[VCS Expresswayの非トラバーサルコールライセンスの使用](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco TelePresence Video Communications Server(VCS)でのトラバーサルコールと非トラバーサルコールの違いと、コールライセンスの使用について説明します。

VCSトラバーサルコールライセンスの使用状況

コールが発信され、VCSがメディアとシグナリングを受け取る場合、そのコールはトラバーサルコールであり、そのVCS上でトラバーサルコールライセンスを使用します。VCSがメディアを受信する必要があるトラバーサルコールの例を次に示します。

- VCS Controlでは、トラバーサルサーバとの間のコール (ファイアウォールトラバーサルコールと呼ばれる)。
- VCS Expresswayの場合、トラバーサルクライアントとの間のコール (ファイアウォールトラバーサルコール)。トラバーサルクライアントには、他のVCS、ゲートキーパー、ボーダーコントローラ、トラバーサル対応エンドポイントが含まれます。
- ローカルVCSでH.323とSession Initiation Protocol(SIP)の間でゲートウェイ (インターワーキング) されるコール。
- ローカルVCSのIPv4アドレスとIPv6アドレスの間でゲートウェイ (インターワーキング) されるコール。
- デュアルネットワークインターフェイスが有効になっているVCSの場合、あるLANポートから着信し、別のLANポートから発信するコール。
- 両方のエンドポイントがNATトラバーサルにInteractive Connectivity Establishment(ICE)を使用しない限り、参加者の1人がネットワークアドレス変換(NAT)の背後にいるときのSIP間コール。
- メディア暗号化ポリシーが適用されたコール。

- Microsoft Office Communications Server (OCS)バージョン2007またはMicrosoft Lync Serverバージョン2010との間で送受信される暗号化通話。OCS/Lyncのバックツーバックユーザエージェント(B2BUA)は使用されません。B2BUAを使用する場合、B2BUAアプリケーションは常にメディアを取得しますが、コールはVCSトラバーサルコールとして分類されず、トラバーサルコールライセンスを消費しません (VCSがコールシグナリングを取得する場合は、非トラバーサルライセンスを消費します)。

注：OCSまたはLync Serverへの暗号化されたコールには、拡張OCSコラボレーションオプションキーが必要です。

その他のコールはすべて非トラバーサル (ローカル) コールです。

注：コールは、メディアを受け取るためにルート内の各VCSが必要かどうかに応じて、あるVCS上のトラバーサルコールであるのに対し、コールルート内の別のVCS上のローカル (非トラバーサル) コールである場合があります。

トラバーサルコールは非トラバーサルコールよりも多くのリソースを使用し、各コールタイプのは個別にライセンスされます。VCSには、実行できる同時トラバーサルコールの最大数に1つのライセンスと、同時に実行できる非トラバーサルコールの最大数に1つのライセンスがあります。VCS (またはVCSクラスタ) で使用可能な各コールタイプを増やすには、適切なオプションキーを購入してインストールできます。導入ごとに異なりますが、ガイドラインとして、システムの同時通話ライセンスに対する登録数を10:1にすることをお勧めします。

VCS Expresswayの非トラバーサルコールライセンスの使用

通常、VCS Expresswayは、コールをルーティングするためにトラバーサルコールライセンスを必要とします。これには、デバイス間のコールが直接登録されている場合でも必要です。これは、ファイアウォールの背後にあるエンドポイントでは、メディアがコールのエンドポイント間でルーティング可能であることを保証するために、VCS Expresswayがメディアを送受信する必要があるためです。

VCS Expresswayを通過するコールがローカル (非トラバーサル) コールとして分類される唯一の状況は、次のシナリオのいずれかに一致する場合です。

- SIP-to-H.323インターワーキングは必要ありません。
- IPv4からIPv6へのアドレスのインターワーキングは必要ありません。
- コールはVCS Expresswayからトラバーサルゾーンを経由してルーティングされません。
- いずれのエンドポイントもトラバーサル対応ではありません (エンドポイントのいずれもAssentまたはH.460.18/19に登録されておらず、AssentまたはH.460.18/19の要求でコールを発信していません) 。
- コールの送信元と送信先：

WANに直接接続されているエンドポイントまたはネイバーゾーン。

ビデオコールをサポートするSIPまたはH.323アプリケーションレベルゲートウェイ(ALG)を備えたファイアウォールの背後にあるエンドポイントまたはネイバーゾーン。これにより、エンドポイントがWANに直接接続されているように見えます。

ローカルに登録されたICE対応エンドポイント (VCSバージョンX5以降を使用する場合)

注：ファイアウォールトラバーサルを支援するために、すべてのCisco TelePresenceエンドポイントがトラバーサル対応であるため、コールに関与するエンドポイントの少なくとも1つがTelePresenceエンドポイントである場合は、トラバーサルライセンスが常に必要です。

注：VCS Expressway上の非トラバーサルコールは、使用できる非トラバーサルコールライセンスがない場合 (VCSバージョンX5以降が使用されている場合) は、トラバーサルライセンスを消費します。このシナリオでは、コールは非トラバーサルコールのままであり、VCS Expresswayはトラバーサルライセンスを使用してもメディアを取得しません。